

<議題①: 台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故の原因調査について>

- 風況シミュレーションの検討範囲が鉄塔倒壊箇所から風上側6kmとなっているが、シミュレーションの領域の妥当性について検証した方が良いのではないかと。風上側6kmより遠くにも起伏のある地面があり、風速や風況の乱れに変化が生じる可能性がある。
- 広域の数値解析領域からの流入風の特徴はどのようなものか。また、風速の変化や風況の乱れの特徴は十分に考慮されているのか。
- 倒壊鉄塔の動的応答解析の結果が、準静的解析の結果を上回った原因はなにか。
- 動的解析および準静的解析の風荷重の設定、特に鉄塔の鉛直方向と水平方向の風荷重分布、各パネルや送電線上での風荷重の同時性や位相差が、鉄塔・送電線連成系の応答解析には重要となる。風荷重の設定はどのようなものか。

<議題③: 中間整理(案)について>

- 特殊地形を考慮した設計は必要であるが、今回の事例を類型化する場合、具体的にどのような条件を想定するのか。
- 今回の局所的強風は、地形と風向がかなり限定的な場合に発生しており、類型化にはさらに検討が必要。過去に地形の特殊箇所を決定した時の経緯等を確認すべき。

以上